

1

43

平成28年1月

社会福祉法人梨雲福祉会
特別養護老人ホーム梨雲苑

梨の風通信

なしのかぜつうしん



撮影場所／特別養護老人ホーム 梨雲苑ゆうゆう

ごあいさつ

理事長 林 一枝



新年明けましておめでとうございます。

二〇一六年新春号ということです、今回の梨の風は発行されま

す。原稿を書いているのは勿論で、今回も書いているのは勿論で、二〇一五年末なのですが、二〇一五年は皆様方にとってどのような年だったでしょうか。

私個人の一年間の思いはさておき、京都清水寺で発表された二〇一五年の漢字は「安」でした。家の中で女性がひざまづいている様子からつくれたという「安」は、安心、安全、安泰というようにゆったりとくつろげる、静かな状況を表す言葉であります。先日来、安倍内閣のスローガンの中に介護離職ゼロというものがありますが、現在人員不足に悩んでいる介護の現場が多い中、厳しい目標であることは言うまでもありませんが、私達のような職場こそ率先して安心、安全を利用者様、ご家族様に提供していかなくてはならないはずなのに、二〇一六年はどうのような方向に舵取りがされていくのだろうと安心どころか不安が先に出てくるような状況です。

梨雲福祉会は五福、呉羽地域のご高齢者の方、そのご家族様の交流の核となるよう、昨年は特にカラオケ機器の貸し出しを通じて地域の各種団体にお邪魔させていたり、カラオケ大会の開催など多彩なイベントを行ってまいりました。介護の現場を知つていただくことも一つですが、外部の眼があることで、職員もいつも以上に緊張感をもつて職務に取り組んできたように思います。また昨年は職員に当たり前のことをする大切さを話してまいりました。挨拶をする、時間を守る、嘘をつかない、物を大切にするなど、小さいときは親によく言われていたのに大人になるとできなくなることが多いのは何故なのでしょうか。職場が職員を育て、職員がまた職場を育てる。職員数が二〇〇人を超えて、今年梨雲苑は二十五周年を迎えます。このような良い循環をもち、社会における法人の立ち位置、法人における個々の役割を再度確認、改善していく所存でございます。

二〇一六年も梨雲福祉会をどうぞよろしくお願ひいたします。

新年にあたり・8



特別養護老人ホーム

梨雲苑



統括施設長 神田 学
現在、社会福祉法人は制度の見直し等で舵取りが難しい状況にあります。

しかしながら私達が元気・勇気・笑顔で事業を営み、団結し、地域に貢献することで向かい風を追い風にする事が出来る様な気がします。

職員や法人が雨や雪に降られた時にでも傘のよう守る事が出来るようこれからも自己研鑽していきたいと思います。

統括副施設長

坪内 奈津子



私が大切にしていること

「一期一会」です。

出会いに偶然はない、すべてが必然のように

思います。梨雲福祉会を選んで働く職員達、当法人事業所のサービスを利用して頂いている皆様「入居者様・ご家族様・地域の皆様方」の日頃からの温かいご支援とご協力を頂き感謝しております。これからは培った専門性を生かした地域貢献活動も見据えていきたいと思います。



事務主任 今井 勝憲

今年は開苑二十五周年を

迎えます。いろいろ変化してきた梨雲苑ですが、何か

と柔軟な対応を求められます。

受身的な対応だけでなく、今までとは違う考え方ややり方があるのでないかという「積極的な柔軟性」を持って、いろいろな変化に対応したいと思います。



看護師長 栗原 純子
今年は本館の改修工事「六十床個室ユニット」がいよいよ始まり、入居者様が安心して暮らして頂ける環境が整います。

職員が一丸となり、今まで介護力向上で培った知識を活かし、入居者様一人ひとりに質の高い個別ケアに取り組みます。また、家族様と共に笑顔で楽しい職場作りに努めてまいります。



看護師長 栗原 純子



事務主任 鈴木 範子

今年は中年で、私は年女です。我が家では猿ではなく、犬を飼っています。犬は、その瞬間瞬間が楽しかったり、嬉しかったり、今が全てです。私も今を、夢中に、そして笑顔で、一生懸命生きていくこうと思います。



主任生活相談員 平本 隆子

毎日が、一年があつとい

う間。歳を重ねるにつれて

強く感じます。入居されている方々の平均年齢は、約八十七歳。その時の流れはどのくらいのものなのでしょう。

かけがえのない人生をご一緒できることに感謝しながら、職員一同、一日一日を大切にしたいと思います。よき一年になりますように…。



管理栄養士 田中 瞳
梨雲苑では四季折々の行事に彩りを添えるお食事会を開いています。

春には回転寿司、夏に流しそうめん、冬にはクリスマス会等味はもちろんの事、五感で食事を味わっていただく事を大切にしています。





主任生活相談員
田村 洋志

二〇一六年の幕が開きました。今年はリオ五輪があり、盛り上がりを見せる年になりそうな予感がします。応援するのもエネルギーを使うので、四年後の東京五輪も見据え今年は利用者の皆さんに混じって体力をつけようかなと考えています。

デイサービスセンター

梨雲苑



サービス提供責任者
永井 ひとみ

新しい年を「我が家」で迎えられること、さぞかしお喜びのことと存じます。今年も私たちヘルパーは、ご利用者さまのその思いを大切に、またご家族さまの心の内に寄り添いながらお手伝いできますよう努めてまいります。

ヘルパーセンター

梨雲苑



センター長 齋藤 玲子

新しい年を迎えると、皆様「今年も一年、健康に過ごせるように」と願われのではないかでしょうか？呉羽地域包括支援センターでは、今年も地域の相談窓口として、地域に笑顔が増えるよう一つ一つの相談に対応して行きたいと思います。

呉羽地域包括支援センター



居宅介護支援事業所

梨雲苑



管理者 結城 佳世子

寒さも厳しくなり、毎月の訪問では「腰や膝の痛みが強くなってきた」と聞くことが多くなっています。私たちは笑顔を忘れず本人やご家族様の想いに寄り添つて相談業務に携わっていきます。



カラオケやDVDを使って大画面で楽しむ公民館活動の支援は予約が大幅に増え了好評です。また今年行つた大きな事業「虹のキャラバン」では、呉羽会館で二百余名のお客様に歌手とのふれあいをお楽しみ頂きました。

梨雲苑ゆうゆうでは三回目となるカラオケ大会を開催、十九団体・百人を超える皆さんの参加、交流に来て頂きました。

地域活動と施設を繋ぐ農業体験への参加も施設利用者の皆さんと一緒にかぼちゃ・大根の収穫を行いました。



地域かがやきアドバイザー
深野 祐次



梨雲苑が地域貢献の取組み強化として今年度配置した「地域かがやきアドバイザー」、広く告知するために町内会や長寿会、サークル団体の皆さんに様々な情報提供を行いました。



特別養護老人ホーム

梨雲苑ゆうゆう



主任生活相談員
高橋 ゆかり



管理者 黒畠 純子

私は、毎朝ラジオを聞いています。常に新しい気付

きがあり時に癒され、常に慰められています。幅広い情報も得る事が出来ます。そして私は看護師でもあり、梨雲苑ゆうのスタートと同時に重要な仕事を任されています。長い間培ってきた「見る、看る、診る」という観察力を生かし、今年も入居者と職員を大切に共に成長していけたらと思います。



本当の笑顔でいられるよう心穏やかにいたい、いなくてはと反省した瞬間でした。

日「何がおかしいの」と入居者様に言われ、いつの間にか営業スマイルになつていてことに気が付きました。



梨雲苑ゆうゆう

デイサービス



主任生活相談員
高橋 ゆかり



管理者 老本 克美

新しい年を迎え、梨雲苑ゆうゆうデイサービスセンターでは、ご利用者様の自立支援を基本的な柱とし、地域と共に、地域の一員として利用者様が幸せを感じる瞬間、その時間を共有したい。私たち職員の願いです。



主任生活相談員
結城 誉博



感じながら、意欲を持つて自主的・継続的な活動に取り組めるよう個別ケアを実施することにより生活機能向上させ、人ととのつながりができるればいいと思います。





私は『笑顔の力』を信じて職務に就いています。

笑顔は人間関係の潤滑油です。笑顔の大切さそしてパワーを意識して雰囲気の良い、地域の皆様に信頼され、必要とされるショートステイを目指していきたいと思います。

ショートステイ

梨雲苑ゆうゆう



ケアマネジャーとして相談を受ける側でありながら皆様から学ばせていただくことも多く、実りある時間を過ごさせていただいています。

少しでも多くのことを皆様にお返しできるよう努力を重ねていきたいと思います。

居宅介護支援事業所

梨雲苑ゆうゆう





管理者　二上　陽佑

新年を迎え、でいさ～び
すさいでは、地域の介
護サービス事業所として、
ご利用者様をはじめ、地域の皆様の日々介護の
悩み等をお聞きし、皆様の笑顔に囲まれ、地域
の憩いの場所となれるよう努めてまいります。

でいさ～びすさい



さいさい

居宅介護支援事業所



管理　宇於崎　順子
今年は申年。申年に赤い
物をつけると良いそうで
す。赤色には、ポジティブ
な要素があります。
私達もそれにあやかり、情熱と躍動感を持
ち、温かさも兼ね備えたケアマネとして、皆さ
んに寄り添っていきたいと思っています。



管理　宇於崎　順子

地域包括支援センター

地域包括支援センターという名称が、年々地域の皆様に広まり、浸透してきたと感じていますが、包括支援センターから突然連絡があると驚かることも少なくありません。

それは予防教室のご紹介であつたり、健康状況の確認であつたりするのですが、「なぜまだ誰かの支援が必要な状態ではないのに訪ねてくる(連絡がある)のだろう」と不思議に感じられるようです。

包括支援センターの役割と言うと、心身の状態が優れなくなつた時に、要介護認定の申請手続きをする窓口、というイメージが大きいのではないかと思います。勿論、これも包括支援センターの大変な業務の一つではあります。しかしそれだけではなく、介護予防事業（予防教室の開催や地域への啓発活動）、地域包括支援事業（在宅復帰支援や地域のサービス事業所等との連携推進など）を始めとする様々な業務を行つている機関でもあります。

最近は「介護予防」という言葉を頻回に耳にするようになりました。ウォーキングやスポーツクラブ等で体を動かす方も、数年前に比べ随分増加しているように思います。しかし、全ての方がこのような活動に参加できる環境にある訳ではありません。包括支援センター



では、ご自分からは積極的に予防活動に参加する方が、きつかけを掴めない方等を中心には、年1回、介護予防教室を開催しています。参加者の皆様には、各自目標を決めて教室に参加頂き、その目標に向かって3ヶ月間、機能訓練指導員からアドバイスを受けながら運動に取り組みます。自宅でもできる運動の紹介や、仲間で取り組むことに毎回好評を頂いています。



このようなことから、それぞれの関係者が正しい知識を持ち、連携していくことが今後ますます必要になっていくと考えます。そのためにも包括支援センターでは、関係機関との研修会や情報交換会などの場を設け、相談への対応方法や横の連携強化に努めています。

加齢に伴い病気や怪我のリスクが高まり、意欲や気力の低下に結びつき易くなります。それに伴い、生活への不安も出てくるでしょう。そのような状態を早期発見、早期対応でさるよう、そして一人でも多くの方の健康寿命が延びることを願つて、「奥羽地域包括支援センターです」と今年も地域の皆様にお声がけさせて頂きたいと思います。



親和会

梨雲苑では、親和会という会があります。この会は、会員相互の親和、相互扶助をはかることを目的とし、慰安旅行、親睦会、ならびに会員及びその家族の慶弔、見舞いなどについて定め、職員が安心して梨雲苑で勤務できるように設けられた会です。その中の大きな行事であります、職員旅行について紹介します。

梨雲苑では、職員の親睦とリフレッシュを目的に毎年社員旅行を行っています。

今年度は、十箇所の旅行先に十八グループに分かれ九月七日の東京歌舞伎座の旅行から始まり、約二ヶ月間に渡って行われました。

● 東京歌舞伎座



● 加賀屋



● 南京ディズニーランド



● 葛井沢



● 横浜中華街



● 小矢部アウトレット



旅行中では、日頃なかなか顔を合わせることのない職員との交流であったり、仕事での悩み等を相談したりと充実した時間を過ごすことができました。身も心もリフレッシュできる職員旅行は、梨雲苑での欠かせない行事です。



● 大阪USJ



● 有馬温泉



● 雅楽俱



また、歓送迎会、忘年会も実施し職員の交流を盛んに行っています。
今年度の活動も残りわずかとなりましたが、最後まで安心して働いていけるよう親和会一同精一杯努めてまいります。

体のサビを防ぐ「水素水」をどうぞ!

梨雲苑と梨雲苑ゆうゆうでは「水素水」のサーバーを設置しています。

水素水とは水素分子が豊富に含まれている還元力の高い水の事で、老化や病気の原因となる酸化を抑制する力があると言われており、美容や健康に気づかう人々の間で話題になっています。脳や心臓の病気に効果があり、病気の予防にもなると言われています。水分補給や、お茶・コーヒーを飲む時などにご提供させて頂いております。施設にお越しの際はぜひ一度ご試飲下さい。



カラオケ大会

地域を元気にしたく企画したカラオケ大会、日頃から梨雲苑のカラオケ機器をご利用いただく長寿会や団体の皆さんを中心に、休日のゆうゆうデイルームを利用し開催しています。

11月に開催した第3回大会では19団体の代表38名に自慢の喉をご披露頂きました。回を重ねる度に増える団体、またご参加頂いた多くの皆さんに好評を得ています。



また、10月に呉羽会館において行われた「虹のキャラバン」ではヒロシ&キーボーの黒沢博さん、ふるみまやさん、つかさ学さんの歌謡ショーをはじめカラオケ機器のコンテンツメニューにあるリズムにのって体を動かす機能を紹介しながら地域の皆さんにプロの歌手との交流を楽しんで頂きました。

◆発行所◆
社会福祉法人梨雲福祉会
特別養護老人ホーム梨雲苑

◆発行人◆
理事長 林 一枝
〒930-0142
富山市吉作1725
TEL(076)436-2002
FAX(076)436-2165
E-mail:riun1725@ybb.ne.jp
URL:<http://www.riuen.com>

東日本大震災の義援金
当法人で入居者様及び利用者様・ご家族様・職員から頂きました義援金を平成26年度分で
社会福祉法人
全国社会福祉協議会宛に
24,782円

公益社団法人
全国老人福祉施設協議会宛に
24,783円

送金させていただきました。この活動は現在も継続しています。今後も皆様のご協力を宜しくお願い致します。

かねてより計画された梨雲苑の個室ユニット化の工事が始まる。入居者様が日常生活をされながらの工事となるので安全安心また快適に生活が出来る様に行政機関とも連携しながら進めていきたい。その際には沢山の関係業者の皆さんと関わりを持つ事となる。その場だけ・言葉だけではなく、心の目をより一層開いて判断し、末永く私も法人と御付き合い頂ける様により一層心して運営したい。神田

編集後記